

令和 5 年 6 月 25 日現在

機関番号：32623

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K04076

研究課題名（和文）診療・介護・障害報酬に横断的かつ統合的な財務情報および非財務情報に関する調査研究

研究課題名（英文）A Study of Financial and Non-financial Information with Several Fee in Jappn

研究代表者

井出 健治郎（井出健二郎）（IDE, KENJIROU）

昭和女子大学・グローバルビジネス学部・教授

研究者番号：70267425

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：以下の二つが達成されています。ひとつは、診療報酬・介護報酬・障害サービス報酬のそれぞれについて共通する点や異なる点を、改めてとりわけ厚生労働省が提供する調査や報告書を通じて、洗い出しが可能となったことであります。もうひとつは、診療報酬、介護報酬そして障害サービス報酬の3報酬の改定にベースとなる経済実態調査・経営実態調査について検討しております。医療・介護・障害と機関・事業所は数多くあります。また、それらは開設主体・母体のもと運営されており、会計基準に差異があります。正当性は確保されていますが、比較可能性という点で、検討する余地があります。本調査研究の成果、今後の議論となりうると考えられます。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、診療報酬・介護報酬そして障害サービス報酬の3つの報酬制度にかかわり、その改定のベースとなる経済実態調査・経営実態調査の共通点や特異点を明らかにすることを主目的としています。とりわけ調査客体が行政調査依頼の増加に負担を感じることでアンケート調査やヒアリング調査から明らかになっています。負担軽減を模索することで社会的な意義や効果は大きいと感じています。また、共通点は整理し簡素化する一方、それぞれの報酬ごとの特徴点は重点的に重きを置く必要もあります。一律な項目ではなく、濃淡を明らかにすることで、それぞれの報酬の意義はクローズアップされ、学術的にも有意義なことと考えております。

研究成果の概要（英文）：The following have been achieved two points. One is that it has become possible to identify the similarities and differences between medical service fees, nursing care fees, and disability service fees on through surveys and reports provided by the Ministry of Health, Labour and Welfare, among others. The other is the economic and management surveys and researches on the revision of medical service fees, nursing care fees, and disability service fees. There are many institutions and offices for medical care, nursing care, and disability. In addition, they are operated under the founding body and parent body, and there are differences in accounting standards. Justification is secured, but comparability leaves room for consideration. This is a major achievement of this research and is expected to be discussed in the future.

研究分野：経営学

キーワード：医療経済実態調査 介護経営実態調査 障害サービス経営実態調査

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

診療報酬、介護報酬そして障害福祉サービス報酬の3つの制度は、わが国の医療・福祉・障害分野でのきわめて大きな施策の一つです。それぞれの報酬制度が独自性も有しています。ただし、その3つの制度を横断的に見通した調査研究はこれまでにありませんでした。

そこで、とりわけ3つの制度を何かしらの観点をもとに、一元化して精査してみようと考えました。3つの制度では、柱となる調査があります。すなわち経済実態調査・経営実態調査ですが、それらを取り上げる中で、それぞれに会計情報・非財務情報があります。それらの会計情報・非財務情報を横並びさせてみて、一定の統合化が図れるのではないかとという思い・背景がありました。

そうした背景の着地が国や自治体から発出される調査を実行する客体側の負担軽減という効果もあろうのではないかと考えておりました。

### 2. 研究の目的

目的は、診療報酬、介護報酬そして障害福祉サービス報酬を網羅する会計情報も非財務情報を模索し、政策的に有用な報告・ディスクロージャーの仕組みについて調査研究することにあります。そのため、以下のような目標を設定しました。

報酬決定の基盤となる経済実態調査・経営実態調査には、それぞれに大変多くの評価項目があります。そこで、3つの報酬制度における調査項目や質問内容を整理し、精査するという目標を設定しています。

3つの報酬制度それぞれの項目の洗い出しの後、共通する項目がどの程度あるのかを明らかにしています。いわゆる横断的な項目の発見です。その中でも、とりわけ会計情報、非財務情報について抽出し、整理するという目標を設定しています。

3つの報酬制度はそれぞれに特性があるため、それぞれの個別調査項目を明らかにしておく必要があります。会計情報・非財務情報にもその制度に個別に必要な項目が存在しています。そのうえで、3つの報酬制度にまたがる項目の中で、統合可能な情報について成果としてまとめるという目標を設定しています。

こうした複数の目標を設定することで、目的達成できるのではないかと考えました。

### 3. 研究の方法

方法は以下の手順で進めました。

診療報酬・介護報酬そして障害福祉サービス報酬の3つの制度はそれぞれに制度的・政策的に非常に重要な特徴や意義があります。3つの報酬制度を比較検討する前提として、その特徴や意義を正確に把握する必要があります。これについては主として文献研究を中心とする研究方法を採用しています。与えられた研究機関全体に及ぶものであり、一定時間を費やすこととなります。

3つの報酬制度の基本は経済実態調査、経営実態調査であり、それらの設問項目がどのような項目なのかを洗い出すとともに、横断的な観点から比較検討する必要があります。会計情報・非財務情報もそこに含まれています。客体向けに作成されているアンケート項目を丹念に精査することが必要です。

その過程の中で、共通した部分・共通項が発見されると考えています。

また、医療機関・社会福祉法人など評価客体はさまざまであり、それらの客体側からは調査そのものが事務負担増との指摘もあります。そこで、どの程度の負担感があるかについてアンケート調査、ヒアリング調査などにより、明らかにしていきます。

上記アンケート調査結果を有効活用するため、統計的な分析も取り入れて、さまざまな観点から相関関係等も明らかにしていきます。

3つの診療報酬は政策的な観点もあり、厚生労働省などをはじめとする所轄官庁、日本医師会、全国社会福祉協議会、日本公認会計士協会など関係団体と協議していきます。最終的には、学会報告・発表を通じて、3つの報酬制度にかかわる会計情報・非財務情報の統合可能性を模索するものであります。

### 4. 研究成果

成果としては以下の通りです。

診療報酬・介護報酬そして障害福祉サービス報酬改定の柱となる経済実態調査、経営実態調査の設問項目において重複があり、とりわけ基本調査項目において共通部分が多いことを確認しています。

また、その共通部分がやはり評価客体となるさまざまな事業者にとって、事務負担の増大という状況についても理解することができました。よって、そのような観点をも検討し、3つの報酬における項目の統合化を考慮しています。

3つの報酬制度はそれぞれに政策的背景があり、独自の項目を有しています。その必要性を明らかにすることができています。それと同時に、3つの制度は有機的に関連していることを明らかにしました。

研究成果としては、以下のようにになりました。

研究報告・発表 2回

雑誌等調査研究論文 3点

共著における調査研究論文 1点

研究成果は可視化することができています。なお、未曾有の有事であった新型コロナウイルス感染症の影響で研究期間につき猶予をいただきました。感謝を申し上げます。また、結果として当初の研究費支給額の残余がありました。オンラインを主とする研究方法の工夫など経費を節減した結果であります。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 井出健二郎	4. 巻 966
2. 論文標題 病院会計準則の管理会計的利活用の新たなフェーズ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 昭和女子大学紀要	6. 最初と最後の頁 37-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 井出健二郎	4. 巻 791
2. 論文標題 さい帯血の正確な供給原価と棚卸資産評価額の算定を探求して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 会計・監査ジャーナル	6. 最初と最後の頁 70-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井出健二郎	4. 巻 34
2. 論文標題 会計とリスク	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本社会関連会計学会年報	6. 最初と最後の頁 78-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 井出健二郎
2. 発表標題 日本血液製剤機構の経営分析
3. 学会等名 日本血液事業学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井出健二郎
2. 発表標題 日本赤十字社血液事業の財務分析
3. 学会等名 日本血液事業学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 橋本尚	4. 発行年 2019年
2. 出版社 同文館	5. 総ページ数 628
3. 書名 国際会計の課題と展望	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------